

令和5年度 先進的介護「北九州モデル」推進に関する評価委員会
会議録

- 1 開催日時 令和6年2月5日(月) 10時～11時30分
- 2 開催場所 北九州市役所本庁舎 12階 121会議室(小倉北区内1-1)
- 3 出席者(五十音順)
木戸委員 工藤委員 黒木委員 田代委員 橋元委員 矢野委員
- 4 会議経過

事務局から令和5年度の実績結果及び令和3年度～令和5年度までの実績と今後の計画について報告。

報告内容について意見交換を実施した。

北九州モデルの展開

委員

基本的にステップを踏んで進められている。資料の「先人たちの声。」は、とても具体的に判り易い。うまくいっている施設については、経営陣に意欲があるか、誰が内部で調整しているかなど、なぜうまくいっているかの分析が重要で、その辺の知見があれば教えてほしい。

事務局

北九州モデルでは、最初に経営層である理事長や施設長、各職種のリーダー全員で、施設に北九州モデルを誰がどのように導入していくか議論し、特定の職種しか知らない状況を作らないようにしている。

また、伴走支援においては、1施設あたり年10数回施設とやりとりを行い、問題が起きれば関係者集めて決めるよう支援している。

委員

グループホームの収支では、施設並みに介護ロボットやICTを導入するのは難しいため、別の尺度で考えていく必要がある。

委員

大きい施設では、介護ロボットやICTを使い、少し余裕をもってより良いケアができると思うが、グループホームにとっても、導入しやすい製品だと助かる。

北九州モデルの実践効果を高めるための機器の開発・改良等

委員

保健福祉局の開発補助金を止めて、実証フィールド提供という役割に特化するのはいいと思う。機器開発は短期間でできるものでなく支援経験の豊富なFAISの取組に乗せていくのがいい。しかし、介護機器市場に可能性が見えないと企業も大学も取り組まないため、具体的に事業の可能性を見せる支援が必要だと思う。

介護助手の活用推進について

委員

現場にはニーズがあると思うのでアプローチすることは非常に重要だが、「介護助手」に関する定義が無い。介護報酬の中ではどういう整理になっているのか。

事務局

介護職員としてカウントしていると思う。アンケート結果・ヒアリング・モデルの実証を踏まえて、北九州モデルでいう介護助手の定義付けはしっかりとやっていきたい。

上手くいっているけどその自覚がない施設があるので、そのような施設の分析をして、他の施設に提供することも検討したい。

予測型介護に関する分析・研究に基づく「予測型介護のeラーニングツール」作成

委員

人の生死については社会通念が深く影響しており、家族がどういう認識をもっているかの社会教育も重要。各施設だけではなく、行政としてもできることがあると思う。

委員

看取りを行っていない施設の課題は、医師との連携である。本当に経営者が覚悟すれば医師は確保できるはずなので、行政とタイアップしてやっていきたい。我々の仕事の範疇として、やらなければならないという覚悟を経営者がどう持つかが重要である。

委員

看取りについては、データを取って、この方はこういうプロセスをたどっているから何月

何日に亡くなる、というのは誰もわからない。それを改善していくのが医療である。

事務局

覚悟までとはいかないが、看取りを受入れていこうという気持ちを醸成していくために、第一段階として、施設の職員がどこでも勉強できるように e ラーニングツールの作成に取り組むこととした。

委員

看取りに関してはプロセスが重要なので、容体に応じて予測するというのがピンとこない。人生の最期をどう捉えていくかが、看取りには大事だと考えている。

委員

看取りの予測型介護 e ラーニングツールは、職員教育の仕組みとしては良い。心構えを作るとか知識持ってもらおうというのは重要なことである。

ICT・介護ロボット等を活用できる専門人材の育成

委員

介護ロボットの開発・導入・活用は、全て人に依存しているので、介護現場の人材育成が組み込まれているのはこのプロジェクトの素晴らしい点である。

介護現場や障害福祉は知識経験が非常にバラバラであるのが、大きく医療と違う点。

誰にどのような教育をしないといけないかは、学術的にもあまり明らかになっていないので、実務をやりながら整理すると良いと思う。

委員

中堅クラスである実践編の対象者について、理学療法・作業療法・ケアマネ会・介護福祉会などに投げかけるなど、専門職団体をどんどん利用していくと、受講者は一気に増えるだろう。

事務局

今後も本研修は続けていきたいと思っており、それぞれのレベルのニーズにしっかり対応できる研修内容を組み立てながら実施していきたい。

また、これまで職能団体には働きかけできていなかったなので、来年度は声掛けしたい。